



多様性に対応した 文化的謙虚さ

初任者ソーシャル
ワーカー対象

多様な文化や価値観が交わる社会のなかで、
ソーシャルワーカーには、自分の立ち位置、特権、限界を知り、
他者との差異を学び続ける姿勢＝文化的謙虚さ
(Cultural Humility) が必要とされています。
文化は、国籍や人種に限らず、性別、ジェンダー、
年齢、障害の有無にも適用できる考え方です。

研修では、「自分とは違う」考え方、価値観、背景に
遭遇した時の自らとその対応を検討する機会にします。

今回は、経験年数5年未満の初任者対象です。

2025年度研修を基に、実践への応用を加えた
改訂版プログラムです。



講師 大谷京子



山口みほ



日時 2027年1月30日(土) 13:00-16:00

場所 日本福祉大学名古屋キャンパス南館
名古屋市中区千代田5-22-35

対象 実践経験5年未満のソーシャルワーカー

定員 40人

参加費 無料

日本福祉大学ソーシャルワークスーパービジョン研究ハブ

本研修は、文化的謙虚さ訓練/研修プログラム開発研究の一環として実施します。
JSPS科研費 JP24K05373の助成を受けています。
研究の趣旨をご確認のうえ、お申し込みください。

お申込み: <https://freshsw-ch.peatix.com>



「その人らしさ」を 尊重する支援とは？？



ソーシャルワーカーとして働くなかで、さまざまな価値観、文化、背景、生活様式をもつ人と出会います。「相手を理解しよう」「その人に寄り添おう」と努力します。でもどうしても、知らず知らずのうちに、自分の「当たり前」や価値観を基準にして相手を判断してしまうことがあります。そこで大切になるのが、「文化的謙虚さ（Cultural Humility）」という考え方です。

文化的謙虚さとは、自分自身の価値観や思い込み、そしてワーカーとクライアントとの間にある力関係に気づき、相手から学び続ける姿勢です。

この研修では、日々の支援場面を振り返りながら、私は「当たり前」をどのように捉えている？「その人のため」と思っている支援は、本当にその人が望んでいるもの？自分の価値観や立場が、相手との関係にどのような影響を与えている？多様な背景をもつ人と、どのように関係をつくっていけばよい？といった問いを一緒に考えます。「正しい支援」を身につけるだけでなく、自分の支援を問い直し、相手とともに学び続けるソーシャルワーカーへ。これからの実践を考える、初任者のための研修です。

【研修で一緒に考えること】

- 文化的謙虚さとは何か
- 私の「あたりまえ」を振り返るリフレクティブワーク
- 私の価値観が、支援にどう影響しているか
- 苦手だなあと感じるクライアントとの関係形成

【こんな人におすすめです】

- ・ 自分自身の「当たり前」を振り返ってみたい方
- ・ 苦手なクライアントへの対応について考えたい方
- ・ ソーシャルワーカーの持つ「力」について考えたい方



ご参加をお待ちしております！

日本福祉大学ソーシャルワークSV研究ハブ

本研修は、文化的謙虚さ訓練/研修プログラム開発研究の一環として実施します。JSPS科研費 JP24K05373の助成を受けています。

お申込み：<https://sw-culturalhumility.peatix.com>

申し込み締め切り 1/24

